

世と教界を見る目を養う(3)

＝まことの主権者を知る＝

■ダニエル3:31－4:34

- ①ネブカデネザルの告白(3:32-33):主を認めている(ダニエルらの奇跡によって)
- ②王の夢:木の成長と木によって養われる生き物(4:8-9)→国家・政府・資本主義・企業家などは民の命を守り、生活を守り、養う働きがある
- ③高ぶる王の運命の宣告(11-13節)とその目的＝主が主権者であることを知らしむるため(14,29節)
- ④ダニエルの解き明かし(16-23節):別名ベルテシャツアル(「彼のいのちを守りたまえ」の意味)の困惑と王に対する配慮(16節)
- ⑤ダニエルの進言(24節)→主権者を知り、その権威を与る王の職務の意義に立ち返るならば繁栄する
- ⑥王の高ぶり(27節):神は王の裁きの前に12ヶ月の猶予を与える(26節)
- ⑦王の発狂(28-30節):支配者の特徴はパラノイド(例 キム・ジョンイル、フセイン、ヒトラーなど)
- ⑧王の回復(31-34節):契機は目を上げて天を仰ぐと理性が戻った→主の主権を証する→王権が戻る→バビロンの王が主を賛美する
- ⑨地的権威の由来と私たちとの関係(ローマ13:1-4)
- ⑩主権者なるキリスト(エペソ1:21;コロサイ1:16、2:15;1ペテロ3:22)→祝福の鍵はキリストの権威に服すること
- ⑪世や教界の悲惨に対する私たちの態度＝大祭司キリストに服する祭司としての役割(1テモテ2:1-7)